

三類の移動動詞は何を表しているのか

高橋弥守彦 (大東文化大学名誉教授)

On the Meaning of Three-Verb Motion Verb Combinations

Yasuhiko TAKAHASHI

内容提要

由三类移动动词构成的“样态移动动词+位置移动动词+趋向移动动词”为基本结构。在此基础上加上客体的话，其基本结构为“样态移动动词+位置移动动词+空间词+趋向移动动词”。但是，客体为空间词以外的名词时，其结构则多种多样。本文将阐明其各种结构形式的意义。

キーワード：連語論 三類の移動動詞 客体 連語の表す意味関係 意味拡張

目次

- 0. はじめに
- 1. 一類の移動動詞と客体との関係
- 2. 三類の移動動詞の表す意義
- 3. おわりに

0. はじめに

筆者(2007:25)は、一般に言われている“**動詞**+上来/去”を基本とするいわゆる動補構造(述補構造・動補連語)に空間詞が加わる場合は、「空間詞は“来/去”の前に用いなければならない」(『実用2』p.301)とする説明に問題があると指摘し、その理由を以下のように述べている。

筆者は、連語論の観点から“**動詞**+上来/去”は動詞連語であり、客体とのくみあわせは、「上+空間詞」が基本であるとし、以下の四構造に分析[表1]している。これらのくみあわせから“**動詞**+上来/去”は空間詞をとらない構造である、としている。また、空間詞は“上”の後に用いて、一つのくみあわせを作り、“来/去”とは直接的な関係がないことも明らかにしている。

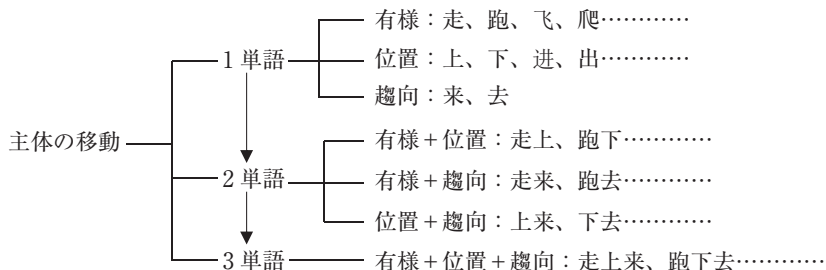
[表1] 「上」+空間詞のくみあわせ

- i. “上”+空間詞：“他上楼了。”[彼は階段を上がった。]
- ii. “上”+空間詞+“来/去”：“他上楼去了。”[彼は階段を上がって行った。]
- iii. ありさま動詞+“上”+空間詞：“他走上楼了。”[彼は階段を歩いて上がった。]
- iv. ありさま動詞+“上”+空間詞+“来/去”：“他走上楼去了。”[彼は階段を歩いて上がって行った。]

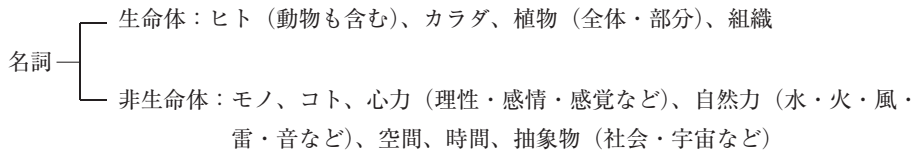
筆者は、かつて移動動詞を移動動詞の有する語彙的な意味から、有様によって移動を表す「ありさま移動の動詞」(略称：有様“走、游…”)、位置の移動によって移動を表す「位置移動の動詞」(略称：位置“上、出…”)、視点のある移動によって移動を表す「趨向移動の動詞」(略称：趨向“来、去”)の三類に分けている。本稿でも移動動詞はこの分類に従う。この三類の移動動詞は「移動動詞+名詞」の構造により、文中では、よく客体となる空間詞とともに用いられ、移動を表している。

筆者の分類する三類の移動動詞は実例の調査と分析とによれば、単独でも使え、組み合わせでも使え、客体をとることもできる。移動動詞のこの文法的な特徴によって、筆者は以下のように三類の移動動詞を系統的に体系化¹⁾している。また、動詞と密接な関係にある名詞²⁾も以下のように分類している。

[表2] 移動動詞とそのくみあわせの体系



[表3] 名詞の分類



本稿では連語論の観点から移動を表す動詞連語「有様+位置+趨向」に焦点を当て、客体をとる場合と、とらない場合、および二つの“了”とのくみあわせが、どのような意味と機能とを表して

¹⁾ 高橋弥守彦(2001:83)には[表2]と、それを用いた例文あり。

²⁾ 李金蓮(2012:75~78)は名詞を“有生命”4類(“人:他, 乡亲们”、“动物:鸡, 鲨鱼”、“身体:脚, 手掌”、“集体:政府, 学校”)と“无生命”3類(“自然力:风, 洪水”、“具体事物:书, 绳子”、“抽象事物:困惑, 友谊”)の7類に分け、具体的な単語も挙げている。

いるのかについて検討する。

1. 一類の移動動詞と客体との関係

移動動詞は、その有する意味から有様移動の動詞“跑、飞”、位置移動の動詞“上、出”、趨向移動の動詞“来、去”の三類に分けられる。三類の移動動詞は、一般に主体の移動を表すので、客体は主体の移動と関係のある空間詞が基本であり、以下のような文が挙げられる。

- (1) 又喊：“走这路的，听话。”（『人民』94-5-93）
「こっちの道を歩くんだ、言うことを聞きなさい」と、もう一度いきました。（同上、94-5-92）
- (2) 这天早晨下楼，遇到送奶的，是个精瘦的小伙儿，生龙活虎的样子，看着让人提精神。（『人民』18-3-69）
この日、早朝に階下へ下りると、牛乳配達人に会った。痩せた元気な青年で、生気に満ちあふれ、見るだけで元気になった。（同上、18-3-68）
- (3) 今天大年初一，矿里的头头都下井了。（『人民』90-3-98）
今日は大年初一で、ヤマの頭たちは皆、坑内に下りてしまっていた。（同上）
- (4) 突然，她下了讲台，径直朝会场外走去。（講読②-109）
すると突然、彼女は演壇をおり、そのまま会場の外に消えてしまった。（同上、p.112）
- (5) 杰和丛风尘仆仆地去了小山村。（『人民』95-8-99）
傑と叢は、足を引きずりながら、ようやく山の村に着いた。（同上、95-8-98）
- (6) 我们全家去承德旅游。（『人民』88-2-98）
わたしたち一家は承德に遊んだ。（同上、88-2-99）

上掲の例文から、本構造の基本は「移動動詞＋空間詞」と言える。この構造はまた中国語の一般的な構造「動詞＋名詞」とも合致する。なお、空間詞は単語レベルで空間を表す基本空間詞は“路”と場所を表す固有名詞“承德”および連語レベルで空間を表す派生空間詞の二類に分かれる。ちなみに、単語レベルであれば、上掲の“楼、井、讲台”はモノ名詞、“小山村”は組織名詞である。これらの名詞は連語の中で派生空間詞として空間を表す。

例（3）と（4）では、文中における“了”の位置が異なる。文末の“了”は語気助詞、動詞の後の“了”は動態助詞である。筆者はこのことについて、かつて談話言語学理論の一つである連関性問答法³⁾により、2つの“了”の現れる順序と、その違いを説明している。

- (7) A1：昨晚你干什么了？ 昨晚、何をしましたか。
B1：我看电视了。 テレビを見ました。

³⁾ 高橋弥守彦（1999：25）に連関性問答法の理論とその展開による文が紹介され、文中における“了”の位置が明らかにされている。

A2: 你看了什么节目? どんな番組を見たのですか。

B2: 我看了《水浒传》。『水浒传』を見ました。

文の展開を分析する連関性問答法によれば、一般的な文の展開では、A1の文末の“了”(語気助詞)が先に現れ、次にA2の動詞の後の“了”(動態助詞)が現れる。先に現れる“了”は出来事を尋ねる場合の用法であり、後に現れる“了”は旧情報になった出来事に関連する動詞の対象などの不明な点を尋ねる用法である。

以下では客体が空間詞以外の名詞で作る例文を挙げてみよう。三類の移動動詞が空間詞以外の客体を取れるのは、移動動詞と空間詞とのむすびつきによる動詞の機能⁴⁾による。

(8) 衣服走样子了。(『光生館』p.1736)

服の型がくずれてしまった。(同上)

(9) 昨晚与小黄下了三局棋。(講読①1-37)

ゆうべは、小黄と三局指した。(同上、41)

(10) 一提起秦腔，不知怎的，老汉又来了神儿。(『人民』90-1-98)

だがおやじは、ちょっと芝居のことを思いうかべたために、なぜかまた考えがもとに戻った。(同上、90-1-99)

上掲三例における下線部の連語中における“走样子”“下了三局棋”“来了神儿”の動詞は、いずれも基本的な意味“走”[歩く]、“下”[下りる]、“来”[来る]でないことが明らかである。移動動詞三類は空間詞とのくみあわせが基本用法であるが、筆者の分析により、「移動動詞+空間詞」のむすびつきにみられる移動動詞の機能により⁵⁾、上掲三例に見られるような、他領域の名詞とも組み合わせることが明らかにされている。

2. 三類の移動動詞の作る意味

劉月華(1998)をはじめ一般の中国語学研究者は、「有様+位置+趨向」“走上来”を動補構造とみなしているが、筆者は連語論の観点から、本構造を動詞連語としている。また、劉月華などは同著で本構造のいわゆる補語の部分「位置+趨向」が趨向意義(p.2~14)・結果意義(p.14~25)・状態意義(p.25~30)を表すとしている。しかし、どのようにして、趨向から結果・状態へと変化するのか、まだ理論的に言及されているわけではない。本節では、連語論の観点から、基本としての移動動詞三者で作る動詞連語の表す意味関係を明らかにする。

⁴⁾ 高橋弥守彦(2017:94~95)では、「上+空間詞」で作る“上”の機能により、モノ名詞とのくみあわせ“上颜色”“上眼药”などの表現が出来るようになることが明らかにされている。

⁵⁾ 高橋弥守彦(2017:153)では「上+空間詞」で作る“上”の機能により、他領域とのくみあわせが可能になることを明らかにしている。なお、高橋は本連語に6つのむすびつき(移動、接近、到着、移り、進入、出現)があることを明らかにしている。

2.1. 三類の移動動詞で作る意味

三類の移動動詞で作る基本構造は、以下の例文に見られるように、「有様移動の動詞“跑”＋位置移動の動詞“回”＋趨向移動の動詞“来”」（例 11）の語順だが、有様移動の動詞の替わりにしばしば有様を表す動詞“等、拿”や形容詞“亮、紧张”などが用いられる。

(11) 过一会儿两个年青人四手空空跑回来。（『人民』93-7-111）

やがて若い二人がムダ足を踏んで帰ってきた。（同上）

(12) 不行，我得等下去。（『人民』89-7-101）

いや、やはり待つべきだ。（同上）

(13) 利贞的全身神经都紧张起来。（『人民』89-1-98）

利贞の全身の神経がピーンと張りつめた。（同上、89-1-99）

例 (11) の“跑回来”の“跑”は有様移動の動詞なので、三類の移動動詞で作る基本構造といえる。しかし、(12) の“等下去”の“等”は行為を表す有様動詞、(13) の“紧张起来”の“紧张”は、状態を表す有様形容詞であり、どちらも移動を表していない。これらの有様を表す動詞や形容詞がその位置に用いられるのは、それが有様を表す単語だから可能となる。また、「位置＋趨向」も本来の意味である移動義を表しているのではなく、移動義から派生する機能義を表している。(12)(13) のような構造をとる組み合わせも、本構造で作る連語にはしばしば見られる。

劉月華（1998：1～30）は、言語事実から、三類の動詞で作るいわゆる動補構造のうちの二つの趨向補語「位置＋趨向」は趨向意義（例 14）、結果意義（例 15）、状態意義（例 16）を表す⁶⁾と説明し⁷⁾、以下のような例文を挙げている。しかし、動補構造を作る動詞と補語との関係については言及されていない。また、それら趨向・結果・状態を表す三者の意味関係がどのように変化しているのかについても言及されていない。

(14) 学生们排着队走进教室去。（《通释》p.9）

生徒たちは列を作って教室に入っていく。（筆者訳）

(15) 你把刚才说的话写下来。（《通释》p.15）

さっき話したことを書いておいて。（筆者訳）

(16) 天阴了，雪又下起来了。（《通释》p.25）

空が暗くなり、雪がまた降り出した。（筆者訳）

劉月華の説明と例文に倣えば、例 (11) は趨向意義、(12)(13) は状態意義である。状態意義のうち、前者は継続義（例 12）、後者は新しく現れた状態義（例 13）である。筆者の分類に従えば、(12) は行為義であり、二類の移動動詞“下来”は行為義を維持する「継続」を表す。

⁶⁾ 劉月華（1998：1～30）は趨向補語がなぜ趨向意義、結果意義、状態意義を表せるのかを明らかにしていない。また、動補構造の中の動詞と補語の関係についても論じていない。

⁷⁾ 劉月華（1998：1～30）の意味分類は、動補構造のうちの補語の部分に焦点を当てて分けている。しかし、補語の部分がどのような意味を表すかは動詞が何を意味しているかにより分けられる。

劉月華の上掲の分類は、言語事実からの意味分類であり、理論による分類ではない。筆者は本稿で先行研究と事例とに基づき、連語論の観点から本構造の表す意味を再分類し、劉月華の学説を検討する。

- (17) 可是，有人匿名控告李厂长联合专案组却飞快地杀进厂来。（『人民』88-11-86）

ところが、匿名で李工場長を告発する者が出たというので、調査グループがたちどころに工場に乗り込んできた。（同上、88-11-87）

- (18) 丈夫开会回来，将肥皂涨价的绝密情报在枕边告诉了胖嫂，她就再也睡不着了。（『人民』89-9-98）

会議から帰ってきた夫が、枕辺で、「絶対機密情報」を話したばかりに、ふとっちょおばさんは、もう眠れなくなってしまった。（同上）

- (19) 现在，那信却随着丈夫出公差去了。（『人民』96-1-87）

あの手紙は、夫とともに出張先にいっている。（同上、96-1-86）

- (20) 一高一矮两个球迷极不情愿地走了进去。（『人民』94-4-93）

ノックとチビのキチガイ二人が、しぶしぶ入ってきた。（同上、94-4-92）

例(17)から(20)までの下線部は、いずれも構造が異なるものの、空間的な移動を表している。これらの動詞連語は、具体的な移動を表しているので、三単語で作る「移動」を表す基本用法といえるであろう。本稿ではこれを「移動義」という。

例(17)の“杀进厂来”の“杀”、および(18)の“开会回来”の“开会”は、いずれもありさまを表す有様動詞である。(19)の“随着丈夫”の“随”は有様動詞であり、(20)の三類の動詞で作る“走了进去”の構造は、いずれも移動を表すが、客体をとらない構造である。このうちの“走”は有様移動の動詞である。各動詞連語の先頭に用いられている有様動詞は、“杀”“开会”のように構造の違う場合もあるが、有様移動の動詞と同じように、有様を表す機能は同じである。次に主体や客体が移動しない例文を見てみよう。

- (21) 她转过身去，从书柜里拿出一沓信封款式相同的信，声音蓦然喃喃：“……”（『人民』88-8-98）

老婦人は、うしろを向いて、書棚から同じ封筒を使った手紙の束をとり出し、ふと声をくもらせた。（同上）

- (22) “啊！”主任这才抬起头来，认真盯着我问道，“你不是工程师吗？”（『人民』88-4-92）

「なんだって？」主任は、はじめて顔をあげ、まじまじとわたしを見つめてたずねた。「きみは技師だろう」（同上、88-4-92～93）

- (23) 局长同县长握过手，一转脸看到了我，先是一楞，但马上转换为笑脸，快速地向我伸出手来：“你也来了，荣幸，荣幸！”（『人民』89-7-102）

局長は県長と握手をして、ふと私を見つけた。はじめは驚いたが、たちまち笑顔をつくって、さっと私のほうに手をさし出した。「キミも来たのですか？ようこそ、ようこそ」（同上）

例 (21) の“转过身去”、(22) の“抬起头来”、(23) の“伸出手来”は、いずれも主体の移動ではなく、その場での主体の動作である。本稿ではこれを「動作義」という。

移動義と動作義との違いは、前者の“杀进厂来” (例 17) は“进厂”が基本であり、空間的な主体の移動はあるが、後者の“转过身去” (例 21) は“转身”が基本で、その場での動作である。前者に見られる移動義を表す場合は「有様」「位置」「趨向」の各動詞がいずれも移動を意味する動詞の場合であればまったく問題にならないが、「有様」「开会」が行為を表し移動を表していなくても、動詞連語全体で主体や客体の移動を意味していれば移動 (例 18) となる。動作義を表す場合は「有様」は動詞だが、「位置」と「趨向」の各動詞は空間的な移動を表しているのではなく、その場での有様の方向性などを意味する機能義 (例 22) を表している。三番目に移動義や動作義でもない例文を見てみよう。

(24) 渐之，竟有些愠怒，凡体重不足的鱼，便摘下钩来，抛入塘中。(『人民』88-5-92)

面白くもないという様子で、重さの足りない魚は、針から外してまた池にほうり投げている。(同上、88-5-93)

(25) 天一亮，她手中的票子将为她生出许多可爱的崽儿来。(『人民』89-9-98)

夜が明けさえすれば、手にしたお金が、彼女にどっさりと「子宝」をもたらしてくれるのだから。(同上)

(26) 失望之余，我又暗下决心，坚持写下去，直到您给我回信为止。(『人民』89-5-100)

失望のあまり私はひそかに決心しました。ずっと書きつづけるぞ、お返事をいただけるまでと。(同上)

(27) 她咽下去的是难堪还是气愤呢？(『人民』88-1-95)

彼女が胸におさめたのは、くやしさ、それとも怒りだったのだろうか。(同上、88-1-95～96)

上掲例 (24) の“摘下钩来”、(25) の“生出许多可爱的崽儿来”、(26) の“写下去”⁸⁾、(27) の“咽下去”は、いずれも主体の移動やその場での動作を表しているのではなく、モノなどに働きかけるその場での主体の行為を表している。本稿ではこれを「行為義」という。主体の行為は、時には (24) (25) のように結果⁹⁾をもたらす。上掲の動詞連語の意味する移動・動作・行為は人為的な運動あるいは人為的とみなせる運動 (例 25) だが、以下では非人為的な運動義を表す例文についてみてみよう。

(28) 小餐馆开起来后，敏便忙碌起来，很快忘记了这个世界上军的存在。(『人民』95-4-99)

食堂開店以来、敏は忙しくなり、この世に軍という人物が存在することも簡単に忘れてしまった。(同上、95-4-98)

⁸⁾ 劉月華 (1998: 29) は“下去”について、動作が引き続き行われることを表すとし、状態のなかの継続とみなしている。筆者は「継続」も「行為」のひとつとし、「行為義」のなかに入れてみる。

⁹⁾ 劉月華 (1998: 15) の言う結果意義を表す例文“你把知道的情况都写出来。”[知っていることを全部書きなさい。]は、筆者の分析によれば、ある結果の出る「行為義」のひとつといえるので、「行為義」の用法に入れる。

- (29) 他倍受鼓舞，一时间，觉得自己高大了起来，庄重了起来。(『人民』91-7-97)
彼はこれに強く励まされて、一瞬、自分がぐんと大きくなり、貫禄が出てきたような気がした。(同上)
- (30) 朋友们一愣，随即明白过来。(『人民』94-1-93)
友人たちは一瞬ポカンとしたが、すぐわかった。(同上、94-1-92)
- (31) 事后，小毛他多数落安安：“你鳖娃儿，见小毛掉下来为啥不救？”(『人民』89-7-99)
あとで子供の父親が安安を責めた。「このやろう、うちの子が落ちたのを知っていてなんでほうり出すんだ？」(同上)
- (32) 她眉宇轻挑，格格笑出声来……眼下，她正取宠于未来的公公丁。(『人民』88-4-95)
眉が軽く動き、「フ、フ、フ」と笑い出した。……当面、未来の舅の機嫌をとっておこうというのである。(同上、88-4-96)

例(28)の“忙碌起来”の“忙碌”、(29)の“高大了起来、庄重了起来”の“高大、庄重”はいずれも形容詞、(30)の“明白过来”の“明白”、(31)の“掉下来”の“掉”、(32)の“笑出声来”の“笑”はいずれも動詞である。下線部で表すこれらの連語は、いずれも人為的な運動ではなく、自然あるいは突発的に発生するか誘発される無作為の非人為的な状態を表している。本稿では、これを「状態義」¹⁰⁾という。

2.2. 「有様+位置+趨向」の各移動動詞と客体との意味関係

三類の移動動詞を用いる動詞連語「有様+位置+趨向」は、文法的手段“把”などを用いないかぎり、客体が空間詞だと構造は一つ「有様+位置+空間詞+趨向」(例33)だが、空間詞以外となると、以下の実例に見られるように、構造がいくつかに分れる。

- (33) 她默默地走下楼去。(『人民』94-8-93)
彼女は黙って階段を下りて行った。(同上)
- (34) 递过我的背心来……”(『人民』91-4-96)
「私のベスト、取ってくれないかしら……」(同上)

例(33)の“走下楼去”は“楼”が派生空間詞なので、“下楼”が基本となり、“楼”は“下”の直後に用いられ、両者で「移動」を表す。“去”は客体を取れる転位義であり、やはり移動を表している。(34)の“递过我的背心来”の客体はモノ名詞“背心”だが、文中における位置は空間詞と同じである。しかし、基本は“递背心”であり、その場での「行為」を表し、“来”は客体を取れない趨向義であり方向性だけを表している。

以下では、「有様」が動詞あるいは「動詞語素+名詞語素」または「動詞+名詞」などにより作られている。これらの語句を検討することによって、本構造の中で有様を表す実例を見てみよう。ま

¹⁰⁾ 劉月華(1998:25~30)の「状態」は、「新状態」「下起来」と「状態の継続」「干下去、弹下去」の2類に分かれる。筆者はヒトの行為を意味する後者を「行為義」としている。

た、本構造には動態助詞の“了”もよく用いられている。

(35) 她又要推辞, 又不敢声张, 生怕被别人看见了, 连忙盖了起来, 弄得饭也没有吃好。(『人民』89-6-98)

鞠さんは、断りたいけれど大きな声も出せず、人目につくのも困るのでいそいでふたをしてしまい、ろくに食事をしなかった。(同上、89-6-98)

(36) 妻出于护士职业的敏感, 翻身起来。(『人民』89-11-96)

妻は看護婦という職業がら敏感なのか、パッと起き上がった。(同上、89-11-97)

(37) 他扔了一个苹果过来, 我接住了。(《通释》p.43)

彼がりんごを投げてよこしたので、受け取った。(筆者訳)

(38) 我和堂妹打开旅行包, 把一大筐苦柚装了进去。(『人民』93-6-111)

ほくといとは旅行かばんをあけて、かごのザボンを詰めた。(同上)

例(35)の“盖了起来”は、客体“盖子”が文中に現れていないが、“盖”は有様を表している。

(36)の“翻身起来”のうちの“翻身”は、「動詞語素+名詞語素」からなる動詞であり、やはり有様を表している。(37)の“扔了一个苹果过来”の“扔了一个苹果”は、「動詞+名詞連語」であり、やはり有様を表している。この動詞連語には“扔”の後に動態助詞“了”が加わり、動詞のアスペクトとしての、ある一局面を表している。(38)の“把一大筐苦柚装了进去”は構造から見れば、「把」を用いる動詞連語」であり、有様動詞“装”の後に動態助詞“了”を用い、アスペクトとして動詞のある一局面を表している。

(39) 他刚站起来要走, 忽然感到旁边飘过来一股香气, 暗中一看, 原来她来了, 默默地坐在了自己的身旁。(『人民』89-6-99)

立って出ようとしたとき、ほのかな香りを感じた。暗い中で目をこらすと、鞠さんが来ていた。ひっそりと自分のそばにいたのだ。(同上)

(40) 东西放回去。(『人民』88-11-90)

これは戻しておきなさい。(同上)

(41) 信寄出去了。我很快便把它忘却。(『人民』88-8-97)

ポストに入れてしまうと、すぐこの手紙のことなど忘れてしまった。(同上)

例(39)の“飘过来一股香气”は「有様+位置+趨向+客体」である。(40)の“放回去”は客体のない構造であり、(41)の“寄出去了”も客体はないが、語気助詞が加わる構造である。「有様+位置+趨向」と客体とで作るくみあわせは、上掲の分析により、本稿では以下の6構造に大別する。有様は有様移動の動詞“走”(例33)が基本だが、上掲の例文に見られるように、有様動詞“放”(例40)や有様形容詞“忙碌”(例28)を用いる場合もある。これは有様動詞や有様形容詞も有様を表せるから、有様移動の動詞と同様の位置に用いることが可能なのである。

本稿では、この連語と客体とで作る6構造がどのような意味を表すのかについて、以下で検討する。劉月華(1998: 1~30)は「有様+位置+趨向」のうちの「位置+趨向」の意味分析により、移動義・結果義・状態義の三類に分けている。筆者は「有様+位置+趨向」と客体で作る連語全体を

分析の対象とする。ちなみに、筆者の分析によれば、上掲の「動詞連語(+客体)」で作る例文は、「移動義」1例(例33)、「動作義」1例(例36)、「行為義」7例(例34, 35, 37, 38, 40, 41)、「状態義」1例(例39)に分かれる。以下では構造別に連語の表す意味を分析する。

2.2.1. 「有様+位置+客体+趨向」で作る構造

移動を表す三類の動詞で作る本構造は、客体に空間詞を用いる場合が基本である。しかし、空間詞以外の客体がいわれている場合も多々ある。まず客体が空間詞の場合を見てみよう。

2.2.1.1. 「有様+位置+空間詞+趨向」で作る構造

「有様+位置+趨向」とその客体となる名詞で連語を作る場合、これらの動詞がいずれも移動を表す場合であれば、客体は移動と関係のある空間詞で作る構造「有様+位置+空間詞+趨向」(例42)が基本である。この基本構造は「有様+位置+空間詞」と趨向とに分かれ、その核となるくみあわせは前者の中の「位置+空間詞」である。しかし、本構造の中の「有様」には移動を表さない場合(例43「**捡**」, 44「**转身**」)もある。そうすると、これらの連語が移動を表すのは「位置+趨向」が移動義を表す場合といえる。

(42) 她默默地走下楼去。(『人民』94-8-93)

彼女は黙って階段を下りて行った。(同上)

(43) 小男孩蹲下, 想把它抱起来, **捡**回家去。(『人民』94-11-101)

彼はしゃがんでスッポンを抱き上げ、家にもって帰ろうとした。(同上、94-11-100)

(44) D 在我的肩上亲切地拍了一拍, **转身**进店里去了, 因为有谁在呼他。(『人民』95-6-99)

D氏は親しみを込めて軽く僕の肩を叩いてから、むきを変えて店のなかに入っていった。

かれのポケットベルが鳴ったのだ。(同上)

これらの動詞の機能を調査すると、例(42)の“走下楼去”の構造は“走+下楼+去”であり、有様を表す移動“走”[歩く]は「空間的な移動のむすびつき」「下楼」[階段を下りる]の方式を表し、“去”は話者の位置から主体が遠のくことを表している。(43)の“**捡**回家去”の構造は“**捡**+回家+去”であり、有様を示す“**捡**”は行為を表し、「空間的な移りのむすびつき」「回家」[家に帰る]は空間的な移りを表し、“去”はやはり主体が話者の位置から離れて遠のくことを表している。(44)の“**转身**进店里去了”の構造は“**转身**+进店里+去+了”である。有様を表す“**转身**”[体のむきを変える]は動作を表し、「空間的な進入のむすびつき」「**进**店里”[店の中に入る]は空間への進入を表し、“去”はやはり主体が話者の位置から離れて遠のくことを表している。

これらのくみあわせから見ると、本構造が移動を表すか否かは、「有様」を意味する運動(例42: 移動、43: 行為、44: 動作)が移動を表すか(例42) 否か(例43, 44)ではなく、その後用いる連語「位置+空間詞」と趨向とが有様との関係で、本義である移動義を表すか(例42, 43, 44) 否かによる。

例(42)(43)(44)の「位置+空間詞」と趨向とはいずれも移動を表しているので、客体が空間

詞であれば、本構造全体で移動義を表していると言える。

2.2.1.2. 「有様+位置+空間詞以外の名詞+趨向」で作る構造

本構造「有様+位置+空間詞以外の名詞+趨向」は客体が空間詞ではなく空間詞以外の名詞だが、客体の位置は空間詞と同じである。本構造では「有様+位置+空間詞以外の名詞」で一つの出来事を表し、趨向移動の動詞“来/去”は転移義である移動を表す場合と機能義である方向性を表す場合とに分かれる。例文を見てみよう。

- (45) 谁知日头落山时，斜坡里突然**窜**出一只野狼来，扑向羊群。（『人民』93-3-111）

ところが、日が落ちると、突然、山から**狼が一匹現れて**、羊の群れに襲いかかってきた。

（同上）

- (46) 妻也没睡稳，**转过脸**来问：“见谁？”（『人民』89-5-101）

妻も寝入っていないかつらしく、**顔をこちらに向けた**。「誰に？」

- (47) 我从她皮兜里**翻**出一叠信来，果然都是同一个地址。（『人民』89-5-100）

妻のハンドバッグをさぐって、**ひと束の手紙をとり出すと**、やはり差出人の住所はみな同じになっている。

- (48) 她眉宇轻挑，格格**笑**出声来……眼下，她正取**宠**于未来的公公丁。（『人民』88-4-95）

眉が軽く動き、「フ、フ、フ」と**笑い出した**。……当面、未来の舅の機嫌をとっておこうというのである。（同上、88-4-96）

例(45)の“**窜**出一只野狼来”の構造は“**窜**出一只野狼+来”であり、「空間的な出現のむすびつき」“**窜**出一只野狼”[狼が現れる]は客体の移動を表し、“来”は話者のいる位置に近づくことを表している。(46)の“**转过脸**来”の構造は“**转过脸**+来”であり、“**转过脸**”は動作を表し、“来”は顔が話者の位置に向くことを表している。(47)の“**翻**出一叠信来”の構造は“**翻**出一叠信+来”である。“**翻**出一叠信”[かき回して手紙を出す]は行為を表し、“来”はヒトの力により、手紙が話者の位置に近づくことを表している。(48)の“**笑**出声来”の構造は“**笑**出声+来”であり、“**笑**出声”は状態を表し、“来”は主体の移動ではなく、機能義として笑い声が出てくることを表している。

これらのくみあわせの表す意味から見ると、本構造が移動を表すか否かは、「有様+位置+客体」で表す出来事（例45：移動、46：動作、47：行為、48：状態）が移動を表せるか否かではなく、その後用いる「趨向」が「有様+位置+客体」との関係で、本義である移動義を表すか（例45）否か（例46, 47, 48）による。ちなみに、本構造全体では、(45)は移動義、(46)は動作義、(47)は行為義、(48)は状態義を表している。これは本構造の中の連語「有様+位置+客体」の表す意味と一致している。

2.2.2. 「有様+客体+位置+趨向」で作る構造

本構造「有様+客体+位置+趨向」は、客体が空間詞ではなく空間詞以外の名詞であり、「有様+客体」でひとまとまりの意味としての出来事を表し、「位置+趨向」でもう一つの出来事を表してい

る。例文を見てみよう。

- (49) 她刚朦朦眈眈入睡, 他出车回来了, 虽然他开门、开灯都是那样轻手轻脚, …… (『人民』88-1-92)

意識が薄れてようやく眠りに入りかけたころ、彼が運転から戻ってきた。そっとドアを開け、そっと電気をつける。(同上)

- (50) 妻出于护士职业的敏感, 翻身起来。(『人民』89-11-96)

妻は看護婦という職業がら敏感なのか、パッと起き上がった。(同上、89-11-97)

- (51) 你用河水、井水、或泉水泡茶, 那水烧得过沸、未沸、或适中, 他一一辨别得出来; 你用山草、禾草、木柴、燃油烧水, 他也能一一品味出来。(『人民』94-3-93)

使ったのは川の水か、井戸の水か、泉の水か、温度はわかし過ぎか、わかし足りないか、適度か、みな区別ができます。燃したのは、山の草か、穀類の草か、たきぎか、石油か、それも言い当てました。(同上、94-3-92)

例(49)の“出车回来了”の構造は“出车+回来+了”であり、有様により出来事を示す“出车”〔(車庫から)車を出す〕は行為である。“回来+了”〔戻ってきた〕は移動を表している。(50)の“翻身起来”の構造は“翻身+起来”であり、“翻身”〔身体のむきを変える〕は動作を表し、“起来”〔起き上がる〕は動作の方向性を表している。(51)の“品味出来”の構造は“品味+出来”である。“品味”〔味見する〕は行為を表し、“出来”は行為の方向性を表す機能義である。

これらのくみあわせから見ると、本構造が移動を表すか否かは、「有様+客体」で表す出来事(例49:行為、50:動作、51:行為)が移動を表せるか否かではなく、その後用いる有様との関係で「位置+趨向」が移動義を表すか(例49)否か(例50, 51)による。ちなみに、本構造全体では、(49)は移動義、(50)は動作義、(51)は行為義を表している。

2.2.3. 「有様+“了”+位置+趨向」で作る構造

本構造「有様+“了”+位置+趨向」は、各移動動詞が客体をとらない場合である。「有様+“了”」でひとまとまりの意味としての出来事を表し、「位置+趨向」でもう一つの出来事を表している。例文を見てみよう。

- (52) 当他把那几颗晶莹的种子下到两只精致的花盆的时候, 小女儿沁沁跑了过来, 嚷着也要种花。(『人民』89-3-100)

二つのきれいな植木鉢に、透明で光り輝くタネを埋めていた時のことだ。娘のシンシンが走ってきて、わたしも植えるんだと行ってきかない。(同上)

- (53) 当他的脚一踏上客厅的门槛, 屋里先是猛然一静, 坐着的人刷地站了起来, …… (『人民』89-7-102)

その人が客間に一歩入ると、室内がさっと静まり、すわっていた者は立ち上がった。……(同上)

- (54) 二大爷是第一个见了他的“乌头”伸大拇指的人, 长庚满满地装了一锅烟叶, 痛快地递了过

去。(『人民』91-12-96)

「烏頭」を見て最初に親指を突き出したのは、二大爺だった。長庚はきざみタバコをいっぱいにつめて、サッと二大爺に差し出した。(同上、91-12-97)

- (55) 父亲的精神居然好了起来, 有一天对吕星说: “老这么闲着, 饭馆里的事我也干点儿吧。”(『人民』94-10-93)

意外や父も精神的に元気になって、ある日吕星に言った。「いつもヒマだから、私も少し食堂を手伝おう」。(同上、94-10-96)

例(52)の“跑了过来”の構造は“跑了+过来”であり、有様を示す“跑了”は移動を表し、動詞連語「位置+趨向」「过来」[やってきた]も移動を表している。(53)の“站了起来”の構造は“站了起来”であり、“站了”[立った]は動作を表し、“起来”[起き上がる]も動作の方向性を表している。(54)の“递了过去”の構造は“递了+过去”である。“递了”[手渡す]は行為を表し、“过去”は行為の方向性を表す機能義である。(55)の“好了起来”の構造は“好了+起来”であり、“好了”は状態を表し、“起来”は状態の方向性を表す機能義である。

本構造が移動を表すか否かは、「有様+“了”」で表す出来事(例52:移動、53:動作、54:行為、55:状態)が移動を表せるか否かではなく、その後に用いる有様との関係で「位置+趨向」が本義である移動義を表すか(例52)否か(例53, 54, 55)による。ちなみに、本構造全体では(52)は移動義、(53)は動作義、(54)は行為義、(55)は状態義を表している。これは本構造の中の連語「有様+“了”」の意味と一致する。

本節の構造「有様+“了”+位置+趨向」は、構造的には下記2例から客体が文中に現れない連語と見なすことができる。例(56)の“一个苹果”、(57)の“把一大篮苦柚”はそれぞれ有様動詞“扔、装”の客体である。言語環境により、これらの客体を外せる条件があれば、この2例は本節の構造となる。それゆえ、本稿では本節の構造を「有様+“了”」と「位置+趨向」とに分けている。

- (56) 他扔了一个苹果过来, 我接住了。(《趋向补语通释》1998: 43)

彼がりんごを投げてよこしたので、受け取った。(筆者訳)

- (57) 我和堂妹打开旅行包, 把一大篮苦柚装了进去。(『人民』93-6-111)

ぼくといとは旅行かばんをあけて、かごのザボンを詰めた。(同上)

2.2.4. 「有様+位置+趨向+客体」で作る構造

本構造「有様+位置+趨向+客体」は、客体が空間詞ではなく空間詞以外の名詞であり、「有様+位置+趨向+客体」でひとまとまりの意味としての出来事を表している。有様の影響を受け、「位置+趨向」が原義である移動義を表していれば、二類の動詞の原義であり、そうでなければ有様の方向性を表す機能義である。例文を見てみよう。

- (58) 一辆小轿车停了下来, 走下来一位满头白发的老爷爷, 还有路边过往的行人, 都来帮着捡撒了一地的苹果。(『人民』14-9-68)

乗用車が止まり、白髪のお紳士が降りてきた。そして通りがかりの人もみんなやって来

て、道に落ちたりんごを拾い始めた。(同上)

- (59) 一支烟快抽完了时, 爸爸准又不慌不忙地再掏出一支, 竖着在大拇指上极快地敲几下, 满满的烟卷便凹下去一小段, 然后再把那一截烟屁股接在这支烟上抽起来。(『人民』89-8-98)
もうすぐおしまいというときに、落ち着きはらってもう一本とり出し、まっすぐに立てて親指の爪の上でトントンとやって、いっばいだったタバコの中味を少しへこませ、そこへ短くなったタバコをさし込んで継ぎ足して吸います。(同上)

- (60) 我知道一家人是从牙缝里省下来小麦, 供应我读书的。(『人民』97-5-87)

家中の者が我慢に我慢をして余した小麦を、自分に送ってくれているのだった。(同上、97-5-86)

- (61) 他刚站起来要走, 忽然感到旁边飘过来一股香气, 暗中一看, 原来她来了, 默默地坐在了自己的身旁。(『人民』89-6-99)

立って出ようとしたとき、ほのかな香りを感じた。暗い中で目をこらすと、鞠さんが来ていた。ひっそりと自分のそばにいたのだ。(同上)

例(58)の“走下来一位满头白发的老爷爷”の構造は“走下来+一位满头白发的老爷爷”であり、「有様+位置+趨向」「走下来」[降りてきた]は移動を表している。“一位满头白发的老爷爷”[白髪の老紳士が]はヒトである。(59)の“凹下去一小段”の構造は“凹下去+一小段”であり、“凹下去”[へこませ]は行為を表し、“一小段”[すこし]はコトである。(60)の“省下来小麦”の構造は“省下来+小麦”である。“省下来”[残す/節約する/儉約する]は行為を表し、“小麦”はモノである。(61)の“飘过来一股香气”の構造は“飘过来+一股香气”であり、“飘过来”は状態を表し、“一股香气”は気体(モノ)である。

これらのくみあわせから見ると、本構造が移動を表すか否かは、「有様+位置+趨向」で表す連語(例58: 移動、59, 60: 行為、61: 状態)が移動を表せるか否かではなく、動詞連語「有様+位置+趨向+客体」が本義である移動義を表すか(例58)否か(例59, 60, 61)による。ちなみに、本構造全体では、(58)は移動義、(59)(60)は行為義、(61)は状態義である。これは本構造の中の三類の移動動詞「有様+位置+趨向」の表す意味と一致する。

2.2.5. 二つ以上の移動動詞の後にそれぞれ客体をとる場合

動詞連語「有様+位置+趨向」を作るそれぞれの動詞がそれぞれ客体をとる場合は、客体は空間詞だけでなく空間詞以外の名詞もある。連語「有様+客体」「位置+客体」「趨向+客体」が、それぞれひとまとまりの意味としての出来事を表す。

この三類の動詞で作る「有様+位置+趨向」が客体とのくみあわせにより、本構造全体でどういう意味を表すのか、この三つのくみあわせが同一文中に二つ以上ある場合の例文を見てみよう。

- (62) 大年初一, 穿上簇新的衣服, 带上真挚的祝福, 走街过巷去给村里的长辈拜年。(『人民』15-1-78)

元日にはおろしたての服を着て、心のこもったお祝いの言葉を携え、村の道々を歩き回っ

て、年長者たちに新年のあいさつに行く。(同上)

- (63) D 在我的肩上亲切地拍了一拍, 转身进店里去了, 因为有谁在呼他。(『人民』95-10-99)

D氏は親しみを込めて軽く僕の肩を叩いてから、むきを変えて店のなかに入っていた。
かれのポケットベルが鳴ったのだ。(同上)

- (64) 现在, 那信却随着丈夫出公差去了。(『人民』96-1-87)

あの手紙は、夫とともに出張先にいっている。(同上、96-1-86)

- (65) 后来他听说百里奚是个杰出的人才, 就打算带上贵重的礼物去楚国把百里奚赎回来。(『百家姓』p.155)

しかし後から百里奚は賢才との評判を知って、秦穆公は手厚い贈り物をもって楚国から百里奚を請け出そうと考えました。(同上、p.158)

例(62)の“走街过巷去给村里的长辈拜年”の構造は、“走街+过巷+去+给村里的长辈拜年”であり、“走街”は移動、“过巷”も移動、“去”も移動を表し、“给村里的长辈拜年”は行為を表している。(63)の“转身进店里去了”の構造は“转身+进店里+去+了”であり、“转身”は動作、“进店里”は移動、“去”は移動、“了”は出来事の実現を表す。(64)の“随着丈夫出公差去了”の構造は“随着丈夫+出公差+去+了”であり、有様を示す“随着丈夫”は行為、“出公差”は行為、“去”は方向、“了”は出来事の実現を表す。(65)の“带上贵重的礼物去楚国”の構造は“带上贵重的礼物+去楚国”であり、“带上贵重的礼物”は行為を表し、“去楚国”は空間的な移りのむすびつきであり、移動を表している。

これらのくみあわせから見ると、本構造が移動を表すか否かは、「有様」で表す連語(例62:移動、63:動作、64:行為、65:行為)が移動を表せるか否かではなく、その後に用いる連語「位置+客体」(例62:移動、63:移動、64:行為)が本義である移動義(例62, 63)を表すか否か(例64)によるものでもなく、「趨向」が移動を表すか(例62, 63, 64, 65)否かによる。ちなみに、本構造全体では(62)から(65)まではいずれも移動義を表している。これは本構造を作る三類の移動動詞の中の「趨向」と一致する。

2.2.6. 「有様+位置+趨向」で作る構造

本構造「有様+位置+趨向」は、それぞれの単語の後に客体をとらない構造である。『八百詞』や『実用2』などをはじめとする多くの文法書や教科書では本構造を基本構造としているが、前述のように、筆者は先行研究と実例との分析により、本構造を基本構造としていなく、客体をとらない構造としている。例文を見てみよう。

- (66) 妻在里屋闻声跑出来, 见来人原来是个男孩儿, 高兴得差点掉下眼泪: “你就是翁大川吗?”
(『人民』89-5-102)

声を聞いて、妻が奥の部屋からとび出してきた。やってきたのは坊やだったのかと、涙を流さんばかりのよろこびようで「あなたが翁大川さんのね?」(同上、89-5-101)

- (67) 他刚站起来要走, 忽然感到旁边飘过来一股香气, 暗中一看, 原来她来了, 默默地坐在了自

己的身旁。(『人民』89-6-99)

立って出ようとしたとき、ほのかな香りを感じた。暗い中で目をこらすと、鞠さんが来ていた。ひっそりと自分のそばにいたのだ。(同上)

(68) 他一把抓过来, 送到嘴里就啃。(『人民』90-7-98)

さっとつかみ取って口に入れます。(同上、90-7-99)

(69) 我一口气说下去, 觉得说得愈多, 就是对老师的有力声援。(『人民』88-1-95)

ぼくは一気に答えた。多く話せば、それだけ、先生を大いに力づけることができると思った。(同上)

(70) 几周后, 妻变得忧郁起来。(『人民』89-5-100)

何週間かして、妻がふさがちになった。(同上)

例(66)の“跑出来”の構造は“跑+出+来”であり、動詞連語「有様+位置+趨向」“跑出来”[とび出してきた]は移動を表している。(67)の“站起来”の構造は“站+起来”であり、“站起来”[立って]は動作を表している。(68)の“抓过来”の構造は“抓+过来”であり、“抓过来”[つかみ取って]は行為である。(69)の“说下去”の構造は“说+下+去”であり、“说下去”[答えた]は行為である。(70)の“忧郁起来”の構造は“忧郁+起来”であり、“忧郁起来”[ふさがちになった]は状態を表している。

これらのくみあわせから見ると、本構造が移動を表すか否かは、「有様」で表す意味(例64:移動、67:動作、68:行為、69:行為、70:状態)が移動を表せるか否かだけでなく、その後を用いる「位置+趨向」が有様との関係で、本義である移動義(例66)を表すか否(例67, 68, 69)かによる。

本構造の「有様+位置+趨向」がどのような意味を表すかは、この3類の動詞が何を表しているかによって決まるといえる。ちなみに、本構造全体では(66)は移動義、(67)は動作義、(68)(69)は行為義、(70)は状態義である。これは本構造の中の「有様」と一致する。

3. おわりに

筆者は移動動詞をありさまにより移動を表す「有様移動の動詞」“走、游”、位置の移動により移動を表す「位置移動の動詞」“上、进”、視点のある移動により移動を表す「趨向移動の動詞」“来、去”の三類に分けている。

三類の移動動詞のくみあわせは、劉月華をはじめとする研究者の著す文法書や多くの教科書などにより、一般に動補構造(述補構造・動補連語)と言われている。筆者は先行研究と事例とに基づき、このくみあわせを分析し、本構造を動詞連語と名付けている。なお、有様移動の動詞は有様を表すので、有様移動の動詞に替わって、「有様動詞」「有様動詞+名詞」「有様形容詞」などの場合もある。これが可能なのは、これらによっても有様を表せるからである。

劉月華などは、このくみあわせのうち「位置+趨向」を対象にして意味分析し、膨大な数量の実

例から、言語事実に基づき「趨向義・結果義・状態義」を表すとし、それに該当する例文も挙げている。ただし、なぜ趨向から状態にまで意味拡張するのかの説明が明確になされているわけではない。筆者は連語論の観点から三類の移動動詞または「三類の移動動詞」と客体とのくみあわせで作る連語を対象として意味分析を行っている。

筆者の分析によれば、これらで作る動詞連語は、六類の構造に大別でき、構造の違いはあるものの、どの構造であっても「移動義・動作義・行為義・状態義」に分類できる。また、三類の移動動詞と客体との意味関係により、基本義である移動義から派生義としての「動作義・行為義・状態義」への意味拡張の論理も明らかにしている。このうちの移動義・動作義・行為義は文中に人為的な意思が反映されるが、状態義は非人為的であり、意思が反映されない。

動詞連語が移動義を表すか否かは、もちろん三類の移動動詞の意味が大きな役割を果たしていることは間違いないが、まれに趨向移動の動詞が原義である移動義（例 62, 63, 64, 65）を表しているか否かによる場合もある。

言語資料

1. 『人民中国』ショートショート 人民中国雑誌社 1988-1997
2. 『中国語学講読シリーズ』①～⑥ 北京外文出版社 1991
3. 『百家性』物語 毕艳莉著 小松岚译 华语教学出版社 2013
4. 『幼学瓊林』物語 张梅著 吴小瑾 高桥真理子译 2013
5. 『白水社中国語辞典』伊地智善継編 白水社 2002
6. 《汉语常用词用法词典》李晓琪等編 北京大学出版社 1997
7. 《现代汉语动词例释》黄传江 陈小盟 主编 背景师范大学出版社 2011

参考文献

日本語文献

1. 荒川清秀 (2015) 『動詞を中心にした中国語文法論集』白帝社
2. 鈴木康之 (2000) 『日本語学の常識』海山文化研究所
3. 鈴木康之 (2011) 『現代日本語の連語論』日本語文法研究会
4. 島村典子 (2016) 『現代中国語の移動を表す述補構造に関する研究』好文出版
5. 朱徳熙著 杉村博文・木村英樹訳 (1995) 『文法講義』白帝社
6. 高橋弥守彦 (1999) 「“我看了书”は非文と言えるだろうか」『日中言語対照研究論集』創刊号 日中言語対照研究会
7. 高橋弥守彦 (2008) 「“上”と客体との関係について」『外国語学研究第』9号
8. 高橋弥守彦 (2016) 「連語論から見る“动词+上来/去”と客体との関係について」『研究会報告』第38号 日本語文法研究会
9. 北京語言学院編『实用漢語課本 [日本語版] BOOK2』東方書店

10. 丸尾誠(2005)『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社
11. 宮島達夫(1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
12. 李臨定著／宮田一郎訳(1993)『中国語文法概論』光生館
13. 呂叔湘主編 牛島徳次監訳 菱沼透訳(1992)『中国語用例辞典』東方書店

中国語文献

1. 丁崇明(2009)《现代汉语语法教程》北京大学出版社
2. 耿二岭(2010)《汉语语法》北京语言大学出版社
3. 刘月华 主编(1998)《趋向补语通释》北京语言大学出版社
4. 卢福波(2011)《对外汉语教学实用语法》北京语言大学出版社
5. 陆庆和(2006)《实用对外汉语教学语法》北京大学出版社
6. 单宝顺(2011)《现代汉语处所宾语研究》中社会科学出版社
7. 杨德峰(2004)《汉语的结构和句子研究》教育科学出版社
8. 周领顺(2012)《汉语移动域框架语义分析》社会科学文献出版社

(2019年9月26日受理)